



尔来以是言者其之交也
 以健遠事如身。故曰回ノ
 改変ニテ多年未タカノ
 沈沈内閣モ出来以満足ト
 存ハ生業門外漢ニハ其
 年来筆ヲ執テ閣議ヲ攻
 撃シ先者ナレハ因感ニハ
 然ルニ亦一ノ注言ト主
 交リテ今ノ回政變
 内閣少中ノ根ニ在リトハ
 共生ヨリ之ヲ見ルハ藩城ト
 政變^{改選}自由トノ聯立内閣ト云
 フベキモノニテ其根底尚ホ
 此輩固ナラス^{今後}施為ノ如何ニ依
 リテハ或ハ後戻リセヌカトノ
 杞憂ニ堪ヘズ第一今回ノ
 改革陸海ニ相テ範圍外ニ
 置キえハ一時ノ便法ニハ
 得ルガ如クナレバ實ハ他内閣
 ノ後スベキ大敵ナレバ早ク此

得たんが如くナレドモ、他日内閣
ヲ覆ス。ギ大敵ナレバ早ク此
便法ヲ以撤棄ノ以勇氣有
之なり。目下先内閣官者ノ
以鎮撫ニ以多事ナルハ尤ノ
次第ニハ若令ヤ平家ノ
残党全ク亡ビタリト云フベカラズ
若シ油断アルハ未ダ何事
ニ改蹟ノ挙ラザル内ニ残党ニ
回復セテハノ事ナレト云フベカラズ
左アル中ハ現内閣者ハ勿論生等
非内主義ノ者一同ノ遺憾此
上ナキ一中止モ世之ニ付失敬
ナカラ今少シク大体ノ所ニハ
着目ノ上第一ニ残党ノ伏在
所ニシテ獅子身中ノ蟲タル
彼ノ二箇所ニ内外ノ有力者ヲ
入レ換ヘ即チ内閣ノ組織ヲ全
クセシテ一ヲ希望致シ今ノ
改党者ハ陸海軍ニ部ヲ出入
禁制ノ場所ノ如ク考ヘ敵党
ヨリ軍人激昂ノ四字ヲ以テ
恐赫セラル、ハ非常ニ驚駭
スルカ如シ實際決シテ左様ノモノニ
無之ハ承知ノ如ク英國ナドハ
財政家ゴツシエンガ海軍ニ長官
タリ我邦モ従来ノ例ヲ改メ此際
新閣閣老ヲ非シテ吾ハ子ヲ

財政家ゴツシエンガ海軍ニ長官
タリ我邦モ從來ノ例ヲ改メ此際
断然閣老ヲ排シテ異分子ヲ
除キ飽マテモ内閣ノ鞏固ヲ
圖ラシメクハ

右ノ一事ハ生ノ宿論ニシテ
先年刊行『大隈重信』評
傳百十二頁百十三頁ニモ論
述シ置キタレバ其記臆ト存リ

右等ノ事ハ生等ノ中述フル迄
スナク百モ承知ノ事ト存リハ
共所謂「当局者迷傍觀者
審」ニテ失礼ナカラ
老甚至モ
此マキレシヨ脱セラル能ハサルハ
從來ノ事ニ徴知スルニ難カラ
大ハ

尚ホ必考考迄ニ中上ニ交リ
之ハ共筆、意ヲ尽シサズ最モ
緊急ノ一事ダケ中述ト若シ
此一事ヲ輕々看過セラルハ
テハ他日必ず思ヒ出ラル一之
アルベクト野人礼ニ習ハズ無
礼内侮怒ヲ受ケテ敬具

廿一年七月四日 淺草所存

大隈重信條

閣員抄四ノ中が賞の同

圖ラレタリ

右ノ一事ハ生ノ宿論ニシテ
先年刊行『大隈重信』評
傳百十二頁百十三頁ニモ論
述シ置キタレバ記臆ト存リ

右等ノ事ハ生等ノ中述フル迄
スナク百モ承知ノ事ト存リハ
共所謂「当局者迷傍觀者
審」ニテ失礼ナカク老其至モ

此マキレハ脱セラル、能ハサルハ
從來ノ事庶ニ徴知スルニ難カラ
ズ

尚ホハ考考迄ニ中上ニ交リ
之ハ共筆、意ヲ尽シサズ最モ
緊急ノ一事ダケ中述ハ若シ
此一事ヲ輕々看過セラルハ
テハ他日必ず思ヒ出ラル、之
アルベクハ野人礼ニ習ハズ無
礼ハ海怒ヲシテ敬具

廿一年七月四日 淺草所長

大隈重信様

閣下拙田中が儀の伺は
大死のよりの一ノ中
送リ上

大隈
海
敷
必内長

渡邊修二郎
東京麻布區飯倉
片町三十二番地



